

北九州市立ユースステーション指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和2年10月8日(木) 13:30~15:40
- 2 場 所 北九州市立ユースステーション セミナールーム
(北九州市八幡西区黒崎3丁目15-3 コムシティ地下1階)
- 3 出席者 検討員：村上委員、松木委員、野口委員、吉井委員、佐野委員
事務局：子ども家庭局青少年課長、管理係長、担当職員
- 4 会議内容
 - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項等について事務局より説明
 - 検討員の互選により、座長の選出
 - 提案概要に関して応募団体よりヒアリング

【ユースの未来共同事業体】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

(検討員) 多くの主催事業を企画しており、年間の延べ参加人数は6,230人を見込んでいるが、一方で、令和7年度の来館者数は33,000人を目標としている。主催事業への参加人数以外の約26,000人について、どのようにサポートしていくのか。

(応募団体) 主催事業については、連続講座にするなどでリピーターを増やし、あわせて、口コミにより「ユースステーションというところがあるのか」「ユースステーションに行ってみたい」という学生も増やしていきたい。また、現状でも自習、学習などでフリースペースや学習スペースを利用するために来館している利用者も多いので、すべて含めて33,000人という目標を設定した。

(検討員) かなり多くの充実した講座を企画しているが、これらは参加料を徴収するのか。

(応募団体) 材料費などの実費負担程度、または無料での実施を考えている。

(検討員) 採算は取れるのか。

(応募団体) 我々が指定管理を受けている他の施設での過去の実績などを鑑みて、採算は合うよう計画している。

(検討員) 幅広い分野の講座を企画しており魅力的だが、講座の運営やそれぞれに係るスタッフについての見通しはどうか。

(応募団体) ユースステーションを運営するにあたって、アドバイザーボードを設置し、構成メンバーの先生方や地域の方々とも連携、協力しながら運営していきたいと考えている。また、ユースステーションのスタッフには研修などを

実施しながら、内部スタッフでも講座を運営していくよう考えている。また、SDGs 関係の主催事業については、一般社団法人進路指導・キャリア教育支援機構（OCES（以下、オーケス））も、里山を考える会も SDGs 関連のワークショップなどを実施しているので、我々で開催できる。

(検討員) ユースステーションは現在、中・高校生以外にも小学生や一般の方も利用しているが、大学生や専門学生も含めた幅広いサポートについてはどう考えているか。

(応募団体) 主なターゲットは中・高校生としている。時間帯によって色々な方が利用されることについては、どのような利用のされ方など、まだ把握できていないため、利用者の声を聴きながらバリエーションを広げていきたい。

(検討員) 多くの魅力的な講座があるが、この講座は1年間ずっと変わらないのか、内容が変わったりするのか。利用者は興味のある講座には参加するが、それ以外の講座へも興味を引き付けるような工夫はどうか。

(応募団体) 提案書の 22 ページにある中・高校生による自主企画事業について、中・高校生が自ら「こういうのをやってみたい」というのを企画し、その事業をやってみて、文化祭などの場で発表することを考えている。そうすることで、中・高校生が「自分たちが一番やりたいことができた」と感じられるような工夫も臨機応変にやっていきたい。

(検討員) 課題の探究活動やキャリア支援事業など色々あるが、他の場所での実績はどうか。

(応募団体) 課題の探究活動は、北九州市内であれば自由ヶ丘高校や小倉高校の生徒と実施しており、それをユースステーションで色々な高校生を集めてやっていきたい。また、SDGs のワークショップについては、例えばカードゲームを使って体感的に学ぶというプログラムがあるが、里山を考える会はファシリテーションの認定の資格を持っており、過去 2 年半くらいで 30 回以上開催し、1,500 名以上が参加している実績もある。高校については、昨年からオーケスと連携してのプログラムを実施している。

(検討員) 黒崎方面の学生は利用しやすいが、小倉方面の学生には認知度が低い印象がある。また、ユースステーションが地下にあるというのも分かりづらかったりもする。リピーターを増やすという工夫はすごくやっていると感じるが、新規の利用者を増やすという工夫についてはどうか。

(応募団体) ユースステーションが黒崎にあるので、ここでの人の関わりなどは八幡西区、黒崎が中心にならざるを得ないと思う。だが、ここで講座をやるだけではなく、外のフィールドに出て、そこの地域課題は何かとか、地域で活動されている方の話を聴くなどの機会をつくっていきたい。

(検討員) 中・高校生、特に高校生は、自身のキャリアを考えるのに大事な時期だが、部活動に熱中する学生も多く、こういった活動を広めたとしても、興味を持ちづらいのではないかと思う。これらについて、どういった広報などを考えているか。

(応募団体) 学校の授業ではないところで自主的に集まってディスカッションをしたり、SDGsについて考えて取り組むというのは、確かにそういった意識の高い学生が多いという印象を持っている。今後は部活動に一生懸命な学生など、どうやって新規の学生の目を向けるのかを考えており、例えば、探究ツアーやフィールドツアーの体験型プログラム、体を動かすような林業や農業、動物との触れ合いなどであれば、普段は部活動に熱中しているような学生の目も向けることができるのではないかと考えている。

(検討員) 例えば、高校の授業の中にこういったものがあれば、そこで学生全体に知ってもらえることができ、新規、リピーターを増やすということにつながるのではないかと思うが、ユースステーションだけではなく、高校との連携を強化するなどは考えていないか。

(応募団体) オークスは、元々は高校の探究の授業の中で事業を実施しており、高校とのつながりがあるので、ユースステーションでもやっていることを広報することは可能である。

- ・ 提案概要の説明と質疑応答を受けて、各自得点を記入

【玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

(検討員) 現在、新型コロナウイルスの影響で利用者が減っていると思うが、提案の中で掲げている利用者数の目標人数はすごく多い。今後も新型コロナウイルスの影響を考えると、再検討してもらわなければならないところもあると思うが、どう考えているか。

(応募団体) 新型コロナウイルスの影響による利用者の減少については、今回の提案の中では加味していない。理由としては、来年度の4月以降は平常どおりに戻ることを前提としており、予算なども組んでいる。ただし、このような状態なので、現在、ユースステーションは利用者の人数制限を行いながら感染予防に取り組んでいる。この状態が今後どのように変化するのかに応じて、利用者の人数制限などを行わなければならないとも考えている。

(検討員) リピーターなど、延べの利用者数は増えているが、実際の来館者数は減っていることへの対策はどのように考えているか。

(応募団体) 実人数については、平成27年度の直営時の人数よりも平成30年度は微増している。確かに指定管理となった平成28年度からの4年間で見ると実人数は少し減っているが、直営時と比較すると少し増えている。今後の対策としては、各部屋の稼働率を上げていくことが非常に重要であり、ホームページなどで各部屋の情報を細かくお知らせしていこうと考えている。また、学生が利用する時間帯よりも前の時間帯に、一般団体の利用を促していくことで、利用者の実人数の増加を目指したいと考えている。全体的には、平成30年度

の約 70,000 人というのがユースステーションの最大の延べ利用者数だったので、現在は伸び悩んでいるという状態である。まだまだ伸びしろはあると思うが、大きな伸びというよりも、微増、微減を繰り返しながら安定させていくことが重要であると考えている。

(検討員) 具体的に何をするかというのはどうか。

(応募団体) 具体的には、学生の利用時間帯の前の部屋が空いているときの情報を細かに SNS などでお知らせしながら、一般団体の増加を図っていくことが実人数の増加につながると考えている。

(検討員) 一般の利用者よりも、やはり中・高校生の利用者をメインにしてもらいたいとも思うが、その対応はどう考えているか。

(応募団体) 中・高校生、大学生などをメインに利用者を増やしていかなければならないが、中学生、小学生は確かに少ない。これに対しては、地域の小・中学校に出向いて利用を促しているが、ただの広報ではなく、ユースステーションの概要について詳しく説明していくことが必要になってくると思っている。学生は 3 月に卒業することで、これまでのリピーターが一気に減るため、特に 2 月、3 月の広報活動や 4 月、5 月の新入学生への広報活動を増やしていくことで、学生の利用者数の維持を図っていききたい。また、ユースステーションは八幡地区の学生が多いため、小倉や門司方面へもアプローチをかけながら、さらには大学、短大、専門学校にも再度、声かけをしながら、学校にもユースステーションの存在を知ってもらい、学生の利用を促してもらえるよう広報活動を続けていききたい。

(応募団体) ユースステーションは高校生の利用が中心となっているが、土曜、日曜、祝日など高校生の時間があるときは、かなり混雑している状態となっている。朝の開所前は、入口前に高校生が何十人も並んでいることもある。この状況でさらに高校生の利用を増やすというのは少し難しいので、利用時間帯の異なる小、中学生に利用してもらったり、また、日中の学校の授業があっている時間帯は、施設が比較的空いているので、その時間帯に一般の方、主婦層の方々などに利用してもらえるような対策を行っていききたい。

(検討員) 中学生の利用は 19 時までとなっているが、中学 3 年生だと学校が終わるのが 17 時を過ぎたりすることもある。それからユースステーションに来て 18 時から 19 時まで 1 時間だけ勉強するということは現実的に厳しいと思う。また、小学生のみでの利用はできないともなっている。そこで、新規の利用者、リピーターを増やすために色々な情報を発信していると思うが、中には SNS を利用していない小学生などはホームページまで行きつかなくて見ることがないこともある。これまでも SNS の有効活用はやってきたと思うが、情報の発信の方法や内容などについて、これまでとは違った具体的な工夫や計画はあるか。

(応募団体) SNS について、これまでは LINE、Instagram、Facebook を使い広く情報を発信している。小、中学校の利用者を増やしていくには、学校の理解が重要

になってくる。小・中学校の利用には色々な規制があるが、これはユースステーションの開設当時に黒崎地区の小、中学校との約束事があったものと聞いている。SNSなどで小学生に届くのはなかなか難しいので、学校周りや学校でのポスター掲示、地域の市民センターとも連携を密にして、小学生については、やはり対面での広報により、保護者の理解や学校の理解を得られるよう続けていくことがこれからも重要であると考えている。また、SNSが届く高校生などにも引き続き情報を発信していきたい。

(検討員) 今後、もっと強化していきたい部分があれば教えて欲しい。また、高校生の利用者が多く、提案書の中で印象に残っているキーワードに居場所という言葉があったが、ただの居場所ではなく、学校でも塾でもない、色々な人と関われる場所ということが強みだと感じた。それを踏まえたうえで、もっと高校生の進路などを一緒に考えてくれるような、キャリア支援の事業なども考えているか。

(応募団体) 現在、主催事業の中で高校生や大学生へのキャリア支援などは行っていないが、今回は課題解決型の事業を提案している。その中から色々な要望を伺うなどのキャリア支援に関わっていききたいという希望はある。これにはユースステーションの職員ではカバーできない部分もあるので、運営協議会などに諮りながら、様々な支援施設の方々にご協力いただきやりかたも考えている。利用者からそういった要望があれば、こちら動きやすく、色々な方の教えをいただきながらユースステーションを運営していきたいと思っている。利用者からの要望を具現化することができるのがユースステーションのフットワークの軽さだと思っているので、中・高校生の委員会などでそういった意見を出してもらったり、アンケートなどをもらえればと思っている。

- ・ 提案概要の説明と質疑応答を受けて、各自得点を記入

- 検討員は、各自得点を記入したものを発表。その後、検討員全員で意見交換

(検討員) ユースの未来共同事業体(以下、ユースの未来)は、まだ実践されていないので、実績や基盤については普通だが、提案の中身は、様々な講座やプログラムを試みようとしている点や利用者の成長を促すというような理念が強く感じられた。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体(以下、玄海GA)は、これまでの実績や経験、管理体制などは十分だと思う。

(検討員) どちらの団体もしっかりとした理念、コンセプトが感じられた。

ユースの未来は、新規の参入ということで目新しい魅力的な企画があったという印象。

玄海GAは、これまでの実績を継続という印象。しかし、ユースステーションの利用者数が減少していることを考えると、魅力的なのはユースの未来ではないかと感じた。特にSDGsに関しては、現在、ほとんどの小、中、高

校で取り組んでいるため、そこで新規の利用者の獲得の可能性が高まるのではないかと感じた。

(検討員) ユースの未来は、主に中・高校生を支援したいという思いは強く伝わってくるが、それだけでは、中・高校生が学校に行っている時間帯のユースステーションの稼働率は下がるのではないかと感じた。それ以外の一般の利用や小学生、大学生などを含めた利用促進の取組みもするとは思いますが、そこに対する具体性が感じられなかった。しかし、設置目的の達成に向けた取組みとして、新たなプログラム開発に関しては、様々なプログラムを計画しており、興味を惹かれるものもあった。

玄海 GA は、実績や経験は十分にあるが、設置目的の達成に向けた取組みとして、要望を聞いて改善することでより良いユースステーションにしたいというようなことがあったが、要望を聞いて改善するのは当然。重要なのは、若者がどういうものに興味があって、どういった講座を企画したら、若者がユースステーションに行きたいと思われるかといった部分だと思うが、そういった情報収集の方法の工夫については、提案の中では感じられなかった。第 2 期目ということもあったので、前回との違い、今までやってきた中で足りなかった部分やこれまでの 4 年とこれからの 5 年でどう違うのかを示して欲しかったが、そういった部分が分かりにくかった。

(検討員) ユースの未来は、メインターゲットである中・高校生にとって、将来の進路選択は非常に重要になってくると思うが、そこを捉えた具体的な提案があった。ユースステーションでの実績はないが、それ以外での実績は十分魅力的だった。また、SDGs の推進ということで、これまでとは違った視点から新しい事業を企画しているのは良かった。

玄海 GA は、これまでの実績があつての第 2 期目ということだが、飛びぬけた変化というものはあまりなかった印象。中・高校生にとっては、体を動かして体験するものも大切だが、将来のことを考える機会も必要だと思うが、その部分については少し薄い印象を受けた。

(検討員) ユースの未来は、環境教育や SDGs に重点を置いた基本方針というのは、世界的な流れに沿っている印象。これまでのキャリア支援など中・高校生を対象とした事業の実績などから、適性について高く評価できる。また、設置目的の達成のための事業についても、アウトリーチなどの幅広い事業であったり、アウトリーチを見据えた活動を提案している点が魅力的に感じた。

玄海 GA は、他の施設で培ったノウハウや人材といった基盤などを含め、十分な実績を持っている。また、就業支援などの活動の提案は、非常に意義のあるものだった。一方で、他の新規の学生などへのアウトリーチであったり、情報発信の方法については、さらに具体的なビジョンがあれば良かったのではないかと感じる印象。

- 各検討員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各団体の評価レベルを決定
- 事務局は各団体の合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

[総合的な所見]

ユースの未来共同事業体は、ユースステーションの運営実績はないが、他の施設や学校での取組実績などから、十分な適性が見込める。特に、SDGs やキャリア支援といった実績に基づいたプログラムの提案内容が、ユースステーションがメインターゲットとしている中・高校生とマッチしており、非常に魅力的で評価できる。

一方で、玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体は、これまでの実績から、安定した運営基盤を有していることが評価でき、また、居場所というキーワードで幅広い年齢層の受け入れを目指す工夫も見られた。

最終的には、提案内容について、利用者の成長を促すことに着目した理念や、プログラムの魅力とその開発への積極的な試みの点で、両者の評価に差があると判断した。

以上により、検討会としてはユースの未来共同事業体が指定管理者として相応しいと結論づけた。

- 事務局より、今後の指定管理者選定に関するスケジュールなどの説明を行い、検討会を終了